

岡山大学医学部保健学科看護学専攻設置に向けての 看護学教育への取り組みとその経緯

林 優子, 池田敏子, 加藤久美子, 太田にわ

キーワード：看護学教育, 看護学専攻カリキュラム, ヒューマンナーシング, ヘルスプロモーション

はじめに

平成3年7月の大学設置基準の大綱化を受けて、各大学・学部においては、それぞれの理念・目的に基づいたカリキュラム編成の取り組みが進められるようになった。4年制大学を目指そうとする医療技術短期大学部看護学科では、大学における看護教育をどのように考え、どのような特徴あるカリキュラムを構築していくかが大きな課題であった。4年制大学を実現させるための取り組みは、まず、大学教育や看護系大学の在り方を学ぶことから始まった。

学校教育法によれば、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けると共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする」と規定されている。大学基準協会看護学教育研究委員会報告「21世紀の看護学教育—基準の設定に向けて—」（平成6年3月）では、看護系大学は、科学的な知識・技術と深い人間理解を基盤にした実務家を育成すると共に、看護学を発展させる人材の基礎づくりをめざす必要があり、それぞれの教育理念のもとに、その大学がめざす教育研究の構想を発展させることであると述べられている。そして、大学における看護学教育の目的は、確固たる倫理観に基づき、看護学に求められる社会的使命を有効に遂行し、生涯に亘り自己の資質の向上を努めることのできる看護専門職を育成することであるとしている。その教育は、看護職としての基本的知識や技術の修得のみではなく、科学的思考力と倫理的判断力及び創造性を育成し、保健、医療の進歩に即応しつつ、将来高度な知識・技術を有する専門職または教育者・研究者となるための基盤を培うことを重視したものであった。

「大学・短期大学に適用される保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の在り方について（まとめ）」

（平成7年6月）は、上述した考えを受けて、各大学・短大が看護職の養成にとどまらず、看護学の学問体系を創りたいという看護界の要請も満たされる内容を含み、大学独自のカリキュラムが組めるように配慮したものを示した。21世紀医学・医療懇談会1次報告「21世紀の命と健康を守る医療人の育成を目指して」（平成8年）では、医療人育成の上で、教養教育の目的である幅広い知識と豊かな人間性の涵養は極めて重要であり、教養教育に十分配慮したカリキュラム編成に努めることや、それらはカリキュラム区分の教養教育のみならず、専門教育も含めた大学教育全体を通じて培われるべきであると述べられている。「人間を考える教育」「心の豊かな人間を育てる教育」を示唆した医学・看護学教育の刷新である。

以上のような文部省や大学基準協会などが示した看護学教育の在り方を加味しながら、看護学専攻では、豊かな教養と人間性、専門的知識と技術を持つ看護専門職の育成をめざし、ヒューマンナーシングとヘルスプロモーションを看護の核とするカリキュラムを構築するに至った。本稿では、平成11年4月からスタートした本大学医学部保健学科看護学専攻における看護学教育の取り組みについて、保健学科設置に至るまでの経緯と合わせて報告する。

医学部保健学科設置と

看護学専攻カリキュラム作成に至るまでの経緯

岡山大学医学部保健学科設置と看護学専攻カリキュラム作成に至るまでの経緯を表1にまとめた。4年制大学改組に向けての取り組みは、保健学科の教育理念、目的・目標を明確にし、カリキュラム等検討専門部会のメンバー全員が共通認識の基にカリキュラムを作成することであった。岡山大学の教育理

表1 医学部保健学科設置に至るまでの経緯

年月日	事 項	
	医療技術短期大学部（全体）	看護学科
S63.10.5	(医短)教授会にて、(医短)将来計画検討委員会の設置を決定 構成メンバー：部長，各学科主任，各学科(助産除く) 計10名	看護系教員の資質向上 (学位取得，医学部研究生，業績の増，研修)
H3.5.29	(医短)将来計画検討委員会にて、(医短)大学4年制化構想検討 専門部会の設置を決定 構成メンバー：部長，各学科主任(助産はオブザーバー) 計6名	
H4.10.5	(医学部)教授会にて、(医学部)保健学科設置検討委員会の設置を決定 構成メンバー：学部長，評議員2名，基礎系教授3名，臨床系教授3名，医短部長 計10名	
11.2	文部省にて折衝 ・看護系教員の確保・社会的ニーズ，地域性・修士課程までの構想	
12.9	(医短)保健学科構想推進拡大委員会の設置 構成メンバー：部長，各学科主任(助産除く)，各学科 計10名	看護学専攻におけるカリキュラム作成の検討を始める (近藤，太田にわ，池田)
H5.2.18	文部省にて折衝 ・看護系教員の確保・一般教育教員は9人が8人となる ・構想(教育内容)の充実 ・地域のニーズ	
3.3	(医短)保健学科構想推進カリキュラム検討専門部会の設置 構成メンバー：一般教育2名，看護学科3名，診療放射線技術学科3名，衛生技術学科3名，助産学特別専攻1名 計12名	カリキュラム検討専門部会委員 近藤，太田にわ，池田
3.11	文部省折衝 ・県立大学があるが，何故岡山大学に4年制課程が必要か ・教員の資質の向上	
H5.10.1	平成6年度概算要求 アンケート調査実施	
H6.3.19	(医学部)保健学科設置検討委員会に、(医学部)保健学科設置に係るワーキンググループの設置 構成メンバー：基礎系教授3名，臨床系教授3名，医短部長 計7名	
12.14	H5.3.3設置の専門部会の名称を(医短)保健学科構想推進カリキュラム等検討専門部会に変更 毎週火曜日定例会議 構成メンバー：一般教育2名，看護学科3名，診療放射線技術学科3名，衛生技術学科3名，助産学特別専攻1名 計12名 専門部会で看護大学についての勉強会を開始	看護学科全教員でカリキュラム検討を開始 (3グループに分かれて進める) 教育理念，目的・目標，専門授業科目の教育内容，名称，指定規則のよみかえ，カリキュラム等について検討する。 カリキュラムの骨子仕上がる。
H7.1.12	平成7年度概算要求 文部省折衝 ・看護系教員の確保 ・岡山の先発校にない大学を創ること，4年制大学としての特徴を出すこと ・看護の教員が考えた，指定規則に縛られない構想を練ること等 平成8年度概算要求	(近藤，太田にわ，池田) 保健学科設置に関する資料作成協力 (近藤，太田にわ，池田，前田，高畑) カリキュラムのロケットモデル作成 (近藤，太田にわ，池田，高畑)

表1 次ページに続く

年月日	事 項	
	医療技術短期大学部 (全体)	看護学科
H 8 . 1 . 31	<p>文部省折衝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年制短大と4年制大学との違い、特色を明確にした構想とすること ・ 構想の中心に看護系教員の意見が入っているとは思えない ・ 資格取得は看護婦、保健婦一体であること ・ 教員の担当授業科目と研究業績の一致 等 	
4 . 11	<p>文部省折衝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4年制に何故しなければならないか (3年制の充実で対応できない理由から考えよ) 等 <p>保健学科理念、目的・目標の再検討 全体カリキュラムの再検討 教養教育科目、専門基礎科目の検討 岡山大学医学部保健学科の特徴について</p>	<p>カリキュラム等検討専門部会委員変更 近藤, 加藤, 池田, 林 (太田にわ学外研修) 看護学専攻教育理念, 目的, 目標の再検討と 明文化 専門科目及びその名称の再検討 専門授業科目の教育内容の文章化 指定規則との対比表を作成し, 確認を繰り返し行う. 教員と授業科目との整合性. 本学の特徴を示すためのカリキュラムの概念 枠組みを明文化. 概念枠組みに沿ったカリキ ュラム段階別配置を明確化. 授業科目の学年別配置と単位数の最終確認 教養教育科目及び専門基礎科目の再検討 看護学専攻における修士課程の検討を始める.</p>
4 . 25	<p>文部省折衝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健学科設置に向けての情熱が伝わってこない 等 	
5 . 16	<p>(医短) 保健学科構想推進資料作成部会の設置 構成メンバー: 委員長 (看護学科), 各学科 (助産除く) 計 5名</p>	
5 . 23	<p>文部省折衝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な入学試験を現短大から実施のこと (専門高校生とか ボランティア活動をしている者の選抜) 等 <p>大学院修士課程について検討 平成9年度概算要求 一般教育担当教官の配置について岡山大学に協議依頼 (学部長会, 大学教育委員会) 教員確保について協力依頼 (医学部, 岡山大学) 及び学内努 力</p>	<p>看護学専攻に関する資料作成の継続</p>
H 8 . 7	アンケート調査実施	
11 . 20	<p>文部省折衝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科研の申請状況は ・ 4年制が何故必要か・特徴は・学生の確保及び就職の見通 し ・ 学位取得のみでなく, 業績と授業科目の一致 等 	
12 . 12	<p>文部省折衝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確保した教員はしっかり確保すること ・ 教員の変更はカリキュラムの変更になる 等 	<p>入試要項に関することの検討を始める. 入学者選抜方法の検討 編入学に関する事項の検討</p>
H 9 . 2 . 6	<p>文部省折衝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡山大学の特徴, 簡潔, 明瞭, わかりやすい構想とすること ・ 看護系職員の中国ブロックの求人状況は ・ 医学部教授会の推進体制は 等 	
2 . 18	<p>文部省折衝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健学科構想及び今までの資料一式提出の要請 等 	
2 . 28	<p>文部省折衝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H 9 . 2 . 18の書類を提出 <p>岡山大学医学部保健学科構想最終資料まとめ (70ページ)</p>	
3 . 6	<p>文部省折衝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H 9 . 2 . 28の内容照会 	
3 . 28	<p>文部省折衝</p> <p>提出書類の結果についての通知</p>	

年月日	事 項	
	医療技術短期大学部（全体）	看護学科
3.28	・カリキュラムの検討状況が不十分	
3.31	・岡山の先発3大学との違いに説得力のある説明が必要 等 文部省折衝	カリキュラム等検討専門部会委員変更 近藤, 富田, 林, 池田 (加藤学外研修)
4.3	・H9.3.28の疑問点について照会	
4.4	要望書受理（岡山県看護協会）	
4.11	設置要望書受理（岡山県臨床衛生検査技師会）	
4.16	設置要望書受理（岡山県医師会）	
4.25	設置要望書受理（岡山県放射線技師会） 文部省折衝	
H9.5.20	・書類提出 ・岡山には既設3大学があるが、なぜ岡山大学に必要なのか ・何故国立でないか 等 文部省折衝	
8.1	・H9.4.25提出資料の内容の確認照会	
8.11	平成10年度概算要求 要望書受理（岡山県, 岡山市） 文部省折衝	カリキュラム等検討専門部会委員変更 富田, 林, 池田
8.25	照会資料提出 ・一般教育担当教官の学部への配置 ・カリキュラムの見直し状況・入学者選抜方法・事務組織の移行 等 文部省折衝	入試科目等に関する事項の検討
H9.9.3以降	・事務組織の移行表の提出 文部省から大蔵省へ 平成10年度概算要求 文部省から照会	大学案内のためのパンフレット作成の検討
H10.10	・現短大と保健学科のカリキュラム対比 ・平成10年度に岡山大学に設置しなければならない理由 ・短期大学ではできなかったが、保健学科ではできるカリキュラム ・4年制でないといけないカリキュラム ・附属病院の看護婦採用状況 ・学内での設置に向けた委員会の検討状況 ・教官の確保状況 ・保健学科設置についての県内の要望書等 ・県内高校生の進路希望、特に看護についての強い希望 等 4年制大学に改組	保健学科時間割表作成 看護学専攻実習計画表の作成 看護学実習についての検討を始める。 (看護学専攻内に新カリキュラム実習検討会の設置)

念に沿って、社会のニーズに対応した保健学科の基本理念と目的・目標を明文化するのにかなりの時間がかかった。

文部省との折衝では、本大学医学部保健学科の特徴と4年制大学が必要な理由を何度も問い返された。4年制課程に向けて、文部省の指摘は、看護学専攻の準備が十分に整うことであった。すなわち、看護系教員が作成した特徴あるカリキュラムであること、看護系教員の人材が十分に備わっていること、そして、保健学科の特徴及び教育理念とカリキュラムの内容と人材の業績との整合性が問われた。特徴あるカリキュラム作成をめざして、医療技術短期大学部看護学科全教員がそれに取り組むことを決め、グループ別に会議が進められた。その内容は、主として、看護学をどう捉えるか、3年制課程でできなかった教育は何か、4年制課程では何ができるのか、臨床家をどう育てるか等についてであった。そして、“私たちが育てたい学生とは”をテーマに各グループが意見を出し合い、全員で話し合った。カリキュラム等検討専門部会においても、保健学科の特徴あるカリキュラム作成のために検討し続けた。看護学専攻に関するカリキュラム等については、専門部会メンバーの意見をとり入れながら進めていったが、他学科のメンバーとの間で看護に関する共通理解を得ることは至難であった。専門部会のメンバー間で激論を交わすことも度々であったが、少しでも相互の理解を深めようと看護学や看護大学に関する資料を持ち寄って勉強することを重ねた。その頃は、互いに意見を出し合い十分に話し合っただけで物事を進めていくという開かれた雰囲気と場があった。看護学科内においても、全教員が我々の手で大学を創り上げるんだという気持ちを持って課題に取り組み、夢と希望に満ちていた。

看護学専攻における看護学教育

1. 看護学専攻が目指す教育目標

岡山大学の教育理念は、「21世紀を迎え、ますます高度に細分化、多様化に向かう専門分野に適合する能力と、それらを統合する広範な視野の育成を目標とし、さらにこれらの複雑化した社会の諸問題に立ち向かえる探求心とそれを支える心身の健康な人材を養成する」である。その理念に沿って作成された保健学科の基本理念の基に、看護学専攻における教育目標が作成された。

看護学専攻では、教育の目的を、人間の主体性を尊重し、専門的な知識と技術、科学的判断及び創造

的思考に基づいて、様々な健康レベルの人々に対して看護が実践でき、看護学の発展と国際化に貢献できる人材を育てることとして、7つの教育目標を掲げた。それらを大別すると、①看護専門職としての人間形成と課題探究能力の育成、②看護実践に必要な専門的基礎知識と技術の修得、③看護学の学問体系の創造と国際化への対応、の3つである。以下に具体的な教育目標を示す。

- 1) 主体性と社会性及び豊かな人間性を養い、生命に対する畏敬の念と人間愛に基づいた倫理感や共感的態度を培う。
- 2) 人間関係を重視し、人間と環境との関わりの中で、人間を生物学的・精神的・社会的・霊的な統一体として捉える能力を育てる。
- 3) 科学的な判断力、柔軟な批判的思考力や新たな知識・技術を創造できる能力を育てる。
- 4) あらゆる医療場面において、個人の尊重と人権に配慮して、その人の最適健康状態をめざした看護を実践するために必要な専門的な基礎知識や技術を修得する。
- 5) 医学・医療の進歩、少子高齢化、保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化に伴い、個人、集団、地域社会のニーズに対応したヘルスプロモーションを実践する能力を育てる。
- 6) 保健・医療・福祉の進歩に即応しつつ看護を探究し、将来に向けて看護学の学問体系を創造する能力を育てる。
- 7) 国際化視野に立って、国際人として、世界、特にアジアにおける看護活動の実践及び指導的役割が発揮できる能力を育てる。

看護学専攻で示した教育目標は、看護実践者に求められているものは何か、看護学に求められているものは何か、実践の現場から遊離しない教育は何か、学生に期待するものは何か、などを確認し合い、一つ一つの言葉を吟味しながら文章化されたものである。

2. 看護学専攻におけるカリキュラムの構築

看護学専攻カリキュラムは、医療技術短期大学部全体及び看護学科内のワーキンググループやカリキュラム等検討専門部会のメンバー達によって、長い年月をかけて構築された。看護学科内では、4年制課程における看護学教育を体系づけていくための話し合いが進められ、平成7年3月にグループ会議で看護学カリキュラムの構造(案)が作成された(図1)。これは、人格形成と看護実践論・活動論と環境

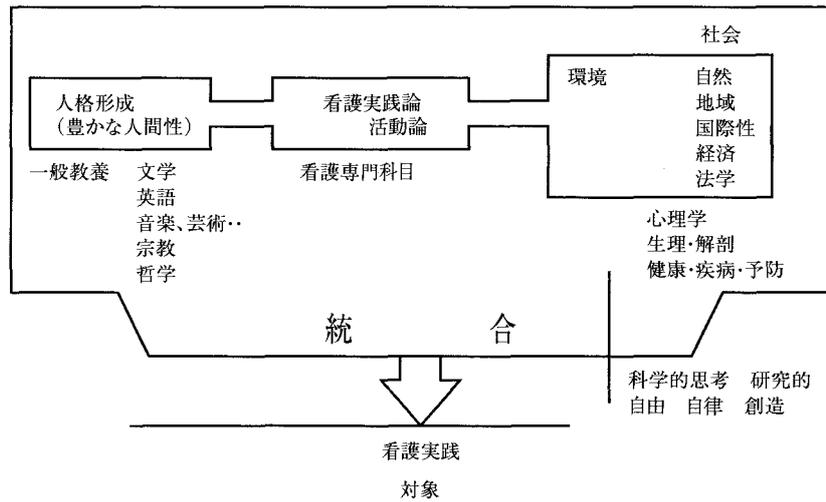


図1 看護学カリキュラムの構造 (案)

平成7年3月作成 (池田グループ)

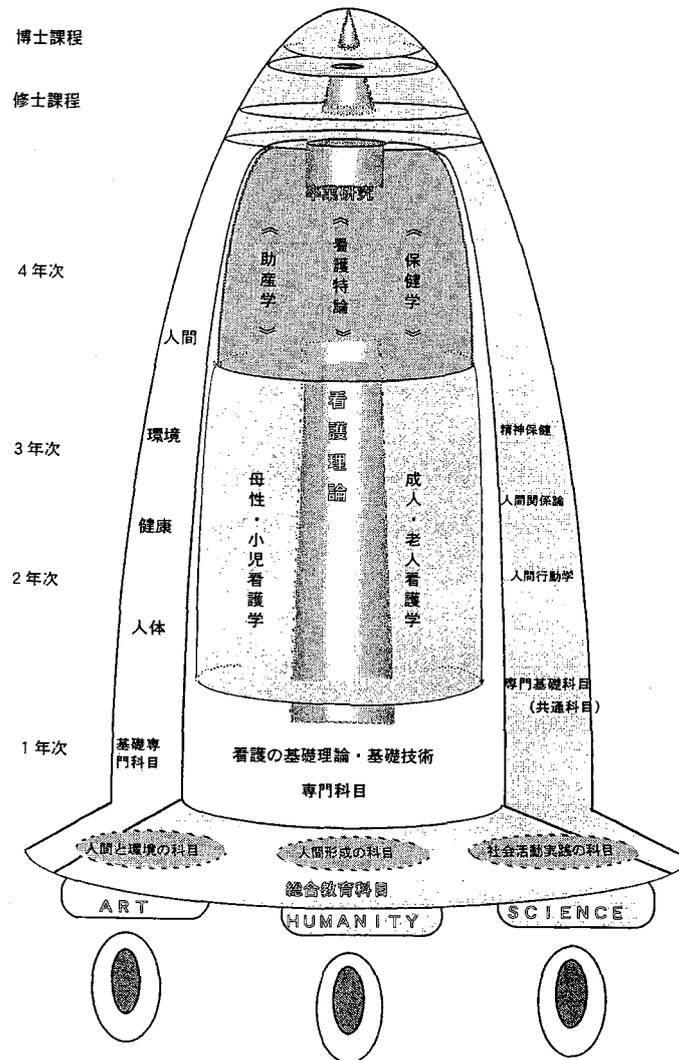


図2 看護学カリキュラムの枠組み (案)

平成7年7月作成 (近藤・太田・池田)

表2 看護学専攻におけるカリキュラムの概念枠組み

平成8年4月作成(林・加藤・池田)

	人間	健康	社会(環境)	看護
下位概念	生物学的存在 心理学的存在 社会学的存在 スピリチュアル的存在 個別的存在 全体論的存在 成長・発達的存在 老化・死の存在 人間としての尊厳をもつ存在 信念・価値観をもつ存在	個人と環境との相互作用 力動的・流動的 最適健康から死に至る連続体 身体的・心理的・社会的・スピリチュアル的 well-being	内的・外的環境との相互作用 家族・コミュニティ・社会 国際化	サイエンス アート 実践科学 健康の予防・回復・維持・増進 倫理観とインフォームドコンセント チーム医療 保健・医療・福祉との連携
理論表示	身体論 成長発達論 人間関係・相互作用論 人間学 宗教学 死生学 哲学 心理学 社会学 法学 倫理学 行動科学 進化論 など	医療原論 健康論 疾病論 保健行動論 免疫学 遺伝子学 ヘルスプロモーション論 栄養学 ストレス理論 など	社会学 政治学 経済学 環境学 国際論 法学 衛生学 システム論 家族関係論 役割理論 文化人類学 社会文化論 適応論 ヘルスプロモーション論など	看護理論 看護過程論 対人関係論 コミュニケーション論 生命倫理 意志決定論 ヘルプロモーション論 ケアリング 看護技術論 看護援助論 看護教育学 情報管理学 看護学研究法 など
授業科目	一般教養 人文科学系 自然科学系 社会科学系	人文科学系 自然科学系 社会科学系 健康・スポーツ科学	自然科学系 社会科学系 情報科学系	チーム医療論 看護・介護演習
	専門基礎 生命科学 人間科学	生命科学 人間科学 保健福祉科学	人間科学 情報科学 保健福祉科学	

を関連づけて示し、それらの統合が対象への看護実践に結びつくものであることを表わしたものである。その後、平成7年7月に看護学カリキュラムの枠組み(案)(ロケットモデル)が作成された(図2)。これは、アート、ヒューマニティ、サイエンスが看護学教育の基盤であるとし、それらに必要な概念や教育科目を年次別に立体モデルで表わしたものである。その後、文部省の指摘を考慮しながら何度も検討を重ねて、平成8年4月から5月にかけて看護学専攻カリキュラムの概念枠組みが明確化され(表2)、カリキュラム内容の段階別配置表が作成され(表3)、最終案の看護学専攻カリキュラム作成に至った(表4、表5)。

表2は、看護学専攻カリキュラムの概念枠組みを、人間、健康、社会(環境)、看護の4つの主要概念で表わし、その概念に関する下位概念と、下位概念を学ぶ諸理論、そしてそれらが授業科目と一貫していることを示したものである。表3のカリキュラム内容の段階別配置表は、人間、健康、社会(環境)、看護について、カリキュラムの内容がどのように進められるかを年次別に示したものである。看護の核をヒューマンナーシングとヘルスプロモーションとした。

表4と表5に示すようにカリキュラムの科目は、教養教育科目、専門教育科目から構成されており、看護学の専門科目は、教養教育科目と専門基礎科目

表3 カリキュラム内容の段階別配置表

平成8年4月作成(林・加藤・池田)

	人 間	健 康	社 会 (環境)	看 護
4 年 次	全体論的存在 人間の尊厳 価値観・信念 ↑	さまざまな健康レベル ↑ 最適健康から死へ	社会 ↑ 国際社会 地球環境 保健システムと行政 医療経済 情報システム	看護技術 看護研究 看護理論 看護過程 ヒューマンナーシング ヘルスプロモーション
3 年 次	身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな存在 個別的存在	心と身体健康障害 老化 妊娠・分娩・産褥	個人・家族・集団・地域 社会環境	看護技術 看護理論 看護援助論 看護過程 ヒューマンナーシング ヘルスプロモーション
2 年 次	人間関係・相互作用 社会的存在	身体健康障害 状況的危機	個人・家族・集団・地域 生活環境	看護技術 看護理論 看護援助論 ヒューマンナーシング ヘルスプロモーション
1 年 次	心と身体 からだの構造と働き 心身の成長・発達 パーソナリティの成長と危機 自己実現した人間 自己超越した人間	心身の健康 発達の危機	個人	チーム医療 看護理論 ヒューマンナーシング ヘルスプロモーション

表4 岡山大学医学部保健学科看護学専攻カリキュラム

平成9年8月完成(カリキュラム等検討専門部会)

	科目区分	授 業 科 目		学 年	
教 養 教 育 科 目	ガイダンス科目 (2科目)	チーム医療演習 看護・介護演習	必修	1年次	
	一般 教 養 科 目	人文科学系科目 社会科学系科目 自然科学系科目 情報科学系科目 健康・スポーツ 科学科 (他学部共通)	選択	1年次 2年次	
	外 国 語 科 目		必修, 選択		
	総 合 科 目	生きる, 生命倫理学, 生と性病と死, 健康と医薬品, くすりの話, 生活の科学, 人間と環境, 食と人間, 国際交流と平和 など	選択		
専 門 基 礎 科 目	生命科学	栄養・代謝学, 形態・機能学ⅠⅡ, 形態・機能学演習, 感染免疫学, 基礎遺伝学, 基礎病態学, 臨床薬理学	必修, 選択	1年次 2年次	
	人間科学	保健科学入門, ヘルスプロモーション入門, 教育学入門, 発達心理 学, 臨床心理学		3年次 4年次	
	情報科学	情報数理科学Ⅰ・Ⅱ, 医用物理学, 医用工学入門, 保健統計学			
	保健福祉科学	国際保健システム論, 国際環境・衛生論, 地域保健環境論, 保健行 政論, 社会福祉論			
	専 門 科 目	基礎看護学 成人看護学 母子看護学 地域看護学	表5参照	心修, 選択	1年次 2年次 3年次 4年次
	目	総合領域	12領域	選択	4年次
	医療系学部共通	表5参照	選択	4年次	
	卒業研究		必修	4年次	

看護学教育への取り組みとその経緯

表5 専門基礎, 専門授業科目の学年別配置

平成9年8月完成(カリキュラム等検討専門部会)

学年	専門基礎科目	必選	専門科目	必選	必選	医療系学部共通	必選
			講義		演習・実習		
4 年 次			母子 *周産期のヘルスケア 2		慢性期看護実習 4	チーム医療論 2	
			*ハイリスク母子の管理 1		*助産学実習 5	保健医療情報システム論 2	
			*母子保健サービスとマネージメント 1		地域看護実習 3	カウンセリング 2	
			地域 産業保健 1		在宅看護実習 2	医療経済学 2	
			総合 看護倫理 3			災害危機管理論 2	
			看護カウンセリング 3			ボランティア実践 2	
			看護教育学 3			救命救急医療 2	
			ヘルスプロモーション 3				
			女性のライフサイクルと看護 3				
			家族看護 3				
			がん・ターミナルケア 3				
			長寿者看護 3				
			在宅看護 3				
			ICU・CCU看護 3				
		透析・移植看護 3					
		リエゾン精神看護 3					
		卒研 卒業研究					
		看護学研究法 1					
		看護研究演習 3					
3 年 次	基礎遺伝子学 2		基礎 看護と生体反応Ⅰ 1		急性期看護実習 3		
	国際保健システム論 2		看護過程論 1		高齢者看護実習 2		
			成人 急性期看護論Ⅱ 2		精神看護実習 3		
			慢性期看護論Ⅱ 2		母子看護実習 4		
			高齢者看護論 2				
			精神看護論 2				
			母子 母性看護論Ⅰ 2				
			母性看護論Ⅱ 1				
			小児看護論Ⅱ 1				
			*助産学総論 1				
			*助産とリプロダクション 1				
			*周産期のヘルスアセスメント 2				
			*周産期のヘルスケア 1				
			地域 健康教育論 1				
		在宅看護論 2					
		保健ネットワーク論 1					
2 年 次	感染免疫学 2		基礎 看護と生体反応Ⅱ 1		基礎看護実習 1		
	基礎病態学 2		看護人間関係論 1				
	臨床薬理学 1		健康生活援助論 2				
	教育学入門 2		療養生活援助論 2				
	ヘルスプロモーション入門 2		成人 急性期看護論Ⅰ 1				
	保健統計学 2		慢性期看護論Ⅰ 1				
	国際環境・衛生論 2		母子 小児看護論Ⅰ 2				
	地域保健環境論 2		地域 ヘルスプロモーション論 2				
	保健行政論 2		家族援助論 1				
			看護調査論 1				
1 年 次	栄養・代謝学 2		基礎 看護学原論 1		ヒューマンリレーション看護実習 1		
	形態・機能学Ⅰ 2						
	形態・機能学Ⅱ 1						
	形態・機能学演習 2						
	発達心理学 2						
	臨床心理学 2						
	社会福祉論 2						
	保健科学入門 2						

*印 助産婦を選択する場合必修

が土台となって成り立っている。教養教育科目は、ガイダンス科目、一般教養科目、外国語科目、総合科目で編成されている。ガイダンス科目は、本大学オリジナルな科目で、入学当初に行う大学教育・研究へのガイダンスとなる科目であり、教養・専門教育への動機づけと学習意欲の向上を図ることが目的である。一般教養科目は、非専門分野の学問領域を幅広く選択して学習し、自らの人間的・学問的教養の基礎とするものである。一般的、入門レベルの科目を開講し、講義・実習は原則として選択、全学開放となっている。総合科目は、大学において望まれる教養を多様な専門領域から、総合的に学習し、社会で必要とされる教養として専門外の多様な知識、考え方の習得が目的である。ガイダンス科目を除いて、すべての科目は他学部共通であり、授業科目数が多いために、ここでは省略する。専門基礎科目は、保健学科各専攻の共通の基盤となる知識の習得が目的である。専門科目は、専門領域の活動に必要な基礎知識と技術の習得が目的であり、その中の総合領域科目は、専門性のより高い知識を学ぶことが目的であり、医療系学部共通科目は、臨床実践やチーム医療、地域医療保健活動に必要な知識と技術を学ぶことが目的である。

おわりに

医療技術短期大学部から医学部保健学科への改組に向けて、学長や医学部長をはじめとする学内・学外の多くの方々から、ご協力、ご支援、ご指導を受けることができた。短期大学部内では、喜多嶋康一元医療短大部長、遠藤浩前医療短大部長、近藤益子前看護学科主任の強靱な牽引力と地道な努力が続いた。さらに、岡本基カリキュラム委員長率いるカリキュラム等検討専門部会、事務長及び事務部スタッフ、岡山大学他学部に分属になった一般教育の先生方を含め、全教職員が一丸となって努力してきた。

文部省との折衝後に返された回答は常に厳しいものであった。直接文部省に書類を持って説明に出かけた事務長や担当係長は、文部省の手厳しい対応につらい思いを繰り返したに違いない。本学の4年制に対する熱意が伝わってこない、看護の教員が入って作成した内容であると思われぬなどの文部省の

手厳しい指摘に、カリキュラム等検討専門部会のメンバーが、「なぜこの熱意が文部省に伝わらないのか」、「何が欠けているのか」、「文部省は何を言おうとしているのか」と問い続け遅く進めてこれたのは、そのような関係各位の方々のご支援や叱咤激励と、教職員の気迫に満ちた団結力だったような気がする。

文部省折衝の大詰の頃、大学設置準備の中心的存在であった教職員は、文部省への提出期限に追われ、連日連夜、資料収集や書類作成で奮闘した。振りかえってみると、4年制大学準備のための資料や文献は山積し、ダンボール10箱ほどになっていた。保健学科設置の承認に至るまでの最後の数年間は、大学設置準備に携わってきた教員達は、ほとんどの時間がそれに費やされた。長い時間をかけて達成できたこの大事業は、研究業績にも匹敵すると言っても過言ではないだろう。しかし、看護学専攻における看護学教育への取り組みはこれからである。教育理念や目標に沿って構築された看護学専攻カリキュラムで学んだ学生達が、卒業時あるいは卒業後にどのように成長していったかを評価し、教育効果を明らかにすることが今後の課題である。

最後に、岡山大学に看護の大学教育を念願し、開学を待たずに定年退職された前看護学科主任近藤益子教授に心から感謝したい。先生がなされた看護学専攻のカリキュラム作成、人材集め、交渉などすべての面におけるご尽力は言葉では言い尽くせない。先生が、岡山大学医学部附属看護学校の時代から培ってきた臨床に根差した看護学の魂を、岡山大学医学部保健学科看護学専攻に受け継ぎ、浸透させていくことが我々の使命であると感じている。

資 料

- 1) 大学基準協会：21世紀の看護学教育—基準の設定に向けて—。看護学教育研究会報告，1994。
 - 2) 大学・短期大学における看護教育の改善に関する調査研究協力者会議：大学・短期大学に適用される保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の在り方について（まとめ），1995。
 - 3) 21世紀医学・医療懇談会教育部会：21世紀の命と健康を守る医療人の育成を目指して，21世紀医学・医療懇談会第一次報告，1996。
- 文献は省略

The process of establishment of the Faculty of
Health Sciences, Okayama University Medical School
and the construction of nursing curriculum
in the department of nursing

Yuko HAYASHI, Toshiko IKEDA, Kumiko KATO, Niwa OTA

Key words : nursing education, nursing curriculum, human nursing, health promotion

Faculty of Health Sciences, Okayama University Medical School